

【平成30年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

音楽科における平成30年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 読譜や音楽用語の知識理解について、系統的な計画と積み重ね、日々の活用によって定着してきている。
- ・ 実態に応じた系統的な指導により、少しずつ表現に自信がついてきた。グループ活動を効果的に取り入れていく。
- ・ 表現と鑑賞の学習を関連付けることにより、音楽を形づくっている要素やしくみを理解できるようになってきた。表現に生かせるようにしていきたい。
- ・ 歌うことを好む児童が多い。自然で響きの豊かな歌声でハーモニーをつくることを目指している。

音楽科における観点別の分析

	関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽の学習は特に音楽朝会の発表やグループ合奏に意欲的に取り組む。 ・ 歌唱は元気に楽しくよく歌うが、発表の場面で消極的になる場合がある。 ・ 楽曲のよさや面白さを感じ取って聴き、進んで書き表そうとしている。 ・ 自分なりの工夫を考えながら、仲間と協力し合って進んで音楽づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素やしくみを根拠に、新たな表現に取り組もうとする児童が増えてきた。更に、友だちの意見を聴いて考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽は必要に応じて個別指導を行い、基礎基本の定着を図る。 ・ 歌唱は部分的に意識すれば音程良く歌うことができるが、地声が強い。自然で響きのあがる歌声で揃えることを目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素や仕組みを理解して、聴くことができる児童が増えてきた。 ・ 音楽を聴いて感じたことをより多くの言葉で表し、全体や相手に伝えようとする児童が増えてきた。

授業改善のポイント

1. 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
→ 児童の実態に応じて毎時間ねらいを明確にし、確実に習得できるようにしていく。学習の積み重ねを経験として話したり生かしたりできる機会を増やす。
2. 楽曲や友だちの意見に繰り返し関わり、考えを広げたり深めたりできるようにする。
→ 楽曲に関わる時間を十分にとり、楽曲や友だちの意見のよさや面白さを感じ取れるようにする。
3. 曲想にふさわしい自然な歌い方ができるようにする。
→ 高音と低音の歌い方に差が出ないよう、特に4年生以上の学年で歌声を揃えていく。曲想に合った歌い方ができるようにする。

音楽科の授業改善策

1. 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
 - 低 姿勢と口の開け方、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを覚える。拍の流れにのって表現する。
 - 中 リズムづくりや旋律づくりの楽しさを味わう。リコーダーの扱いを覚える。
 - 高 オーケストラや和楽器、世界の国々の音楽に親しむ。2部合唱やグループ合奏で和音の響きを味わう。
2. 楽曲や友だちの意見に繰り返し関わり、考えを広げたり深めたりできるようにする。
 - 低 隣の席同士で歌や演奏を聴き合うことで、正しい姿勢や指づかいのよさを実感できるようにする。ペアや少人数で関わり合いながら歌ったり演奏したりすることで合わせる楽しさを味わえるようにする。
 - 中 友達と一緒に活動することで、どの子も主体的に取り組めるようにする。音楽から感じたことを言葉で表し、発表し合うことで楽曲の特徴を明確にし、楽曲の理解が深まるようにする。
 - 高 思いや意図を自分の言葉で表し、表現を工夫できるようにする。楽曲から感じ取ったことについて、楽の要素や仕組みを基に聴き深め、楽曲のよさや面白さを味わえるようにする。
3. 曲想にふさわしい自然な歌い方ができるようにする。
 - 低 特に高音を叫ばずのびのびと歌えるように声のイメージをもたせる。
 - 中 自然で無理の無い声に憧れをもたせ、声の出し方を工夫しながら歌えるようにする。
 - 高 よりよい表現に対する思いや意図をもって、響きを確かめ合ったり、聴き合ったりする活動を増やす。